

なかがわ

広報

2019. 4



町のイメージキャラクター
「なかちゃん」



No.163

平成31年度那珂川町予算	2
アフターDC「なかチョイス」	5
平成31年度職員配置一覧	7
卒業おめでとう	16



卒業おめでとう
(小川中学校卒業式)

広報 Kaito Gallery
展示室

第163回

企画展「東海道旅三昧」

暖かくなり、お出かけが楽しい季節となりましたね。さて、今月号も前号に引き続き企画展「東海道旅三昧」で登場する作品のご紹介

です。前号ではテーマや季節の違いについて説明しましたが、今回は少し視点を変えて、作品に登場する人々に注目したいと思います。

ご紹介する作品は、歌川広重の「東海道五拾三次之内 吉田 豊川橋」です。右側に聳え立つ建物は吉田城で、その下には吉田川が悠々と流れ豊川橋が架かっています。橋の先にある下地村では多くの建物や木場、帆船までもが細かく描かれています。一見、立派な吉田城と川の風景を描いているように見えますが、吉田城周辺の描写を見てみると面白い点があります。まず、吉田城の天守閣周りに足場が組まれて、職人たちが荷を解き、壁を塗っており、修理中であることがわかります。そして足場の一番高いところでは一人の職人が登り、遠くを眺めるように手を仰いでいます。非常に高い位置から眺めるのはさぞかし気持ちのいいことでしょう。そんな遠くを眺める職人の清々しい気持ちが伝わる作品です。吉田城は城主になると幕府の老中や京都所司代などになるため、出世城と呼ばれていました。吉田城と豊川橋を旅の見どころとして描くのであれば、その二つだけを描けばいいかもしれません。しかし、広重はここで敢えて天守閣周りに足場と職人を登場させています。更に遠くを眺めている職人を見ると自然と吉田川と豊川橋に視線が誘導されるように移ります。足場の上に、片手と片足を上げて不安定かつ滑稽な姿の職人を登場させる事によって、ついつい職人に注目してしまう構図となっています。



歌川広重「東海道五拾三次之内 吉田 豊川橋」

広重が描いた風景画にはその風景だけではなく、そこにいる人々の姿も描き込まれています。その人々の姿からはその土地の生活や文化など見て取れますが、広重は更に表情や行動を一人一人描き込むことによって、人々同士の交流や心情までも見るものを感じさせる風景画に仕上げています。今回は楽しそうな姿をご紹介しましたが、他にも苦々しい場面やほっとした場面もあります。作品を見ながら人々の会話を想像してみるのもよし、お気に入りの登場人物(モブ)を探すのもよし。皆さんにとって素敵な作品を是非この機会に探してみてください。

馬頭広重美術館 学芸員 山内れい

【会 期】 ~5月12日(日)

【開館時間】 午前9時30分~午後5時

(ただし入館は午後4時30分まで)

【休 館 日】 月曜日(祝日は開館)、祝日の翌日

【入 館 料】 大人 500円(450円)

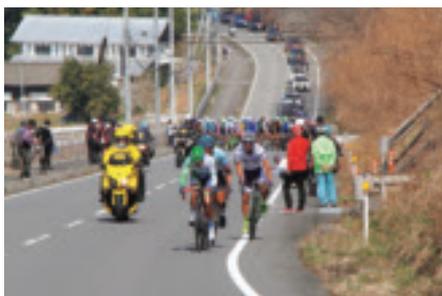
高・大学生 300円(270円)

※()は20名以上の団体料金

※中学生以下は無料

※障がい者手帳等をお持ちの方とその付き添い1名は半額

平成30年度 那珂川町観光協会写真コンテスト受賞作品



優秀賞「ロードレースin那珂川」

撮影者：和泉 一雄さん(小川) 撮影地：小川



入選「岩うちわの里」

撮影者：斎藤 久子さん(大那地) 撮影地：富山

